



南波多町で多文化交流事業 日本の正月を楽しく体験

1月20日、多文化交流事業が南波多公民館で開催されました。これは、市内に住む外国籍住民と市民との交流を通じた相互理解によって、共生の輪をさらに広げていこうと、市国際交流協会が毎年行っているものです。この日は、中国、タイ、イギリス、カナダ、ニュージーランド国籍の14人が参加し、南波多町や市内各団体の皆さん31人と楽しく交流しました。

今回のテーマは、日本の正月にちなんだ伝統行事。外国籍の皆さんは、こままわしや福笑いなどの遊びを体験し、夢中になって何度も挑戦していました。また、餅つきでは、慣れない手つきでついていた皆さんも次第に上達。できたての餅やおせち料理を味わいながら、日本の伝統文化に触れていました。



↑ 笑顔を見せながら餅つきを行う中国籍の皆さん。この後、おいしい餅料理をみんなで堪能しました



↑ 言語活動の必要性などについて熱心に講演する泉建一会長

豊かにたくましく生きていく力を育てるために 第50回市教育研究大会が開催

第50回市教育研究大会が12月25日、市民センターで開催されました。これは、本市における教育の充実や発展を目

的として、市教育委員会などが昭和38年から毎年実施しているものです。

記念すべき今回は、市退職校長会の泉建一会長による講演が行われ、講師自身の体験談などを交えながら、教育研究大会が歩んだ50年の軌跡を振り返りました。また、先進的な指導方法であるICT利活用教育についてのシンポジウムも行われました。ICT利活用教育とは、電子黒板や

パソコンなど情報通信技術を使った授業のことで、市内でも広がりを見せています。

講師やシンポジウム参加者からは、ICTを使うと臨場感があり親しみやすいというメリットもあるが、あくまでも手段の一つとして活用するなど、授業をさらに分かりやすく改善していくことが大事であるとの意見が出されました。

この日参加した市内小中学校の教諭約500人は大会を通じて、子どもたちが豊かにたくましく生きていくために必要な教育活動などについて、理解を深めていました。

郷土の文化財

遺跡から見る伊万里の歴史⑩

◆ 問合先 生涯学習課
(☎233186)

市内の唐津焼窯跡

～ 盛期古唐津の生産地・伊万里 ～

美術館などに展示されている絵唐津（絵が描かれた古唐津）の多くが、実は伊万里市内の窯跡で焼かれていたことを皆さんはご存じでしょうか。

唐津焼は1580年頃から、現在の唐津



絵唐津の陶片

に始まった磁器生産の影響で、唐津焼の需要は少なくなり、唐津焼生産の規模は縮小していききました。このような歴史を持つ唐津焼ですが、現在、窯跡が盗掘の危機にさらされています。盗掘は唐津焼の陶片を狙い、不法に窯跡を掘って破壊する行為です。

その後、陶工たちは北波多を離れて、伊万里や武雄で唐津焼を盛んに作るようになりました。

特に、唐津焼の最盛期と言われる16世紀末頃から17世紀初頭までの間は、伊万里に築かれた窯で、古唐津（絵唐津）の名品が数多く製作されました。しかし、後

掘行為を防止するため、佐賀県では陶磁器窯跡の保護・啓発活動を行っています。本市でも窯跡保存対策協議会を中心とした保護活動により、県指定史跡の茅ノ谷1号窯跡や市指定史跡の阿房谷下窯跡など、貴重な窯跡の保存を図っています。